

8月6日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナ軍 欧米の軍事機器を失いすぎて、旧ソ連製戦車も動員(2023年8月4日)

ウクライナ軍司令部は欧米からの軍事機器をあまりに多く失ったため、旧ソ連製軍機で武装した部隊とも組み合わせて戦場に投入している。フォーブス誌が報じた。ウクライナ軍はロシアの砲撃と地雷原のために退却を余儀なくされている。

米国人従軍記者のデイヴィッド・エックス氏はフォーブス誌向けの寄稿の中でウクライナ軍は欧米が供与の軍事機器をあまりに多量に失ったために古いソ連製戦車T-72や歩兵戦闘車も使用せざるを得なくなっていると書いている。ウクライナ軍司令部は米装輪装甲車ファミリーのストライカー、独製歩兵戦闘車マルダー、米戦車チャレンジャー2といった新型戦車も予備にとっている。

エックス氏は、ウクライナ軍は南方面では反攻開始からロシアの激しい砲撃と地雷原に直面し、苦戦を強いられたため、結局は進撃をあきらめ、退却したと指摘している。

ソ連製機器で装備した旅団を前線に送るという決定をエックス氏はリスクが高いと見ている。こうした機器が地雷原に嵌まれば、乗員には生存の見込みはないからだ。



●「西側諸国は大混乱」ロシア経済は制裁を見事にかわした＝欧米マスコミ(2023年8月4日)

ロシア経済は欧米による対露制裁に対して堅牢さを見せつけた。ロシアは特別軍事作戦開始後に発動された、あらゆる制限措置に屈することなく、新たな取引先へと市場を転換しながら揺るぎのない経済を保障することができた。ウォールストリートジャーナルが複数の消息筋の発言を引用し、こう報じている。

ウォールストリートジャーナルは、特別軍事作戦の開始当初に西側がとった「ロシア経済を迅速に跪かせる」という戦略は「にっちもさっちもいなくなった戦場の状態と同じく」敗退を期したと断言した。

ウォールストリートジャーナルは、ロシアは当初抱えていたマイクロチップの輸入問題を解決し、そのおかげでロシア軍は命中精度の高い兵器で毎日のように攻撃を行う可能性を有していると指摘している。それだけではなく、ロシア産石油は販売制限がかけられようが、間断なく購入されており、炭化水素燃料の採掘量も減少したのは最初だけだった。

ウォールストリートジャーナルの専門家らは、ロシア経済が揺るぎない理由について、国家が大規模な投資を行っていること、軍産複合体が発展していること、対外貿易の相手をインド、中国など東方のパートナーらに切り替えたことにあると見ている。

西側の制裁は誤算

米国人政治学者のジョン・ミルシャイマー氏は米国の極左のニュースウェブサイト「グレーゾーン」からの取材に対し、欧米の対露制裁の有効性には誤算があったとの見方を示した。一方でロシア自身もここまで見事に制裁をかわすことができるとは予想していなかったと指摘している。

ミルシャイマー氏は欧米が対露制裁を発動したことは「深刻な誤算」だったと指摘し、制裁をどんなに見事に駆使してもロシアをへし折ることも、大敗退を期させることもできなかつたろうと語っている。

ミルシャイマー氏は「制裁は発動当初から誤算だったと思う」と見解を締めくくった。



●ロシアは西側諸国の制裁に何年も耐えることができる＝独メディア(2023年7月15日)

ドイツのデア・シュピーゲル誌は、西側諸国の対ロシア制裁はロシア経済をまひさせることはできなかったとし、ロシア経済は何年にもわたって制裁に耐えることができると報じた。

ドイツの専門家らによると、ロシア通貨ルーブルは下落したが、ロシア経済は不況に陥らなかった。専門家らは、ルーブル安はクレムリンが国家財政赤字を補うのを助けるだけだと指摘している。

ロシアは原材料の輸出などの代金を主に外貨で受け取っているが、年金や公務員の給与はルーブルで支払っているほか、防衛産業に対する支払いもルーブルで行っている。ルーブルがドルやユーロに対して下落した場合、たとえ原油価格が変わらなくてもロシアは原油を1バレル売ることにより多くのルーブルを得る。

近い将来にロシア経済を待ち受けているものは何か？

デア・シュピーゲルの専門家らは、ロシア経済全体の持続可能な発展について伝えている。4%というインフレ率は他国に比べれば緩やかな水準といえる。ロシア政府によると、2023年1月から5月までの経済成長率は前年同期比で0.6%増加した。

専門家らは、ロシアには予算を比較的快適に使用できる能力がまだ十分にあるとの見方を示している。3~4%台の財政赤字で経済が持続的に発展することを考慮すると、ロシアには何年も持ちこたえる力がある。



●ウクライナ兵士はキエフに向かうことを約束する【2023年8月2日】

「手足がちぎられた仲間、戦えない人は大事にされない。病院の廊下で2日間も放置されてる。新鮮な肉を前線にぶち込むことしか考えてない。国民が小銭集めて買ったドローン、司令官は誰にもくれない。転売先を考えてる。ウクライナ人よ、いつまでホールの悪党に騙されてるの？ゼレンスキーとその仲間達は、上で私達の死で稼いだお金を分け合ってるだけ。敵はバンコワ(キエフの通り名)にいる。集結しよう」(※安齋注:これは反乱の呼びかけですね)

<https://twitter.com/i/status/1686539627585552384>



●ウクライナのナチス教育(投稿日:2023年3月17日)

<https://twitter.com/i/status/1626388142608482304>

※投稿者コメント:ウクライナUAがやった子供へのナチス化教育。日本のメディアは無視。

●ウクライナの幼児教育の一端【2022年4月19日】

https://odysee.com/@PYONTAKA:3/%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%8A%E3%81%AE%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%8C%E3%83%A4%E3%83%90%E3%81%84:1?src=earn_unauth&s=09

※安齋注:この映像に出てくる少女を『安齋育郎のウクライナ戦争論』に引用したので、見覚えがあるかもしれません。

●保育園からナチスに①——ウクライナの衝撃的な子どもたちの”教育”【2023年4月15日】

2015年、米議会はウクライナのアゾフ大隊への援助を禁止していました。

「米議会在がウクライナのアゾフ大隊への援助を禁止した」から引用します。

下院は、イラクとウクライナへのミサイルシステムの供給を制限した。

米軍兵士はウクライナの義勇軍大隊”アゾフ”の戦闘員を訓練しない。米国議会は、ジョン・コンヤーズが提案した修正案を承認することで、このような決定を下した。同修正案は、イラクやウクライナへの携帯型対空ミサイルシステムの供給を禁止することを意味する。

「下院は昨日、私の修正案を全会一致で可決した。これで我が軍は、憎きネオナチであるアゾフ大隊を訓練することは絶対にないだろう。議会は、危険で輸送が容易な MANPADS が不安定な地域に到達するのを防ぐための私の試みを支持した」と、コンヤーズの公式ウェブサイトが引用している。

2日前、ウクライナのアルセニー・ヤツェニウク首相と米国のアンソニー・ブリンケン国務次官が、ウクライナへの国際的支援と同国の権力分散について話し合ったことを、私たちは覚えておく。

この法案はどうなったのでしょうか。アメリカの二枚舌は置いておいて、ウクライナでは、2014年のマイダン・クーデターの後、なんと、4歳以上の子どもから軍事キャンプで少年少女を訓練していました。無償です。お金は西側の援助と政府から出ます。その目的はロシア人を殺すことです。そこで子どもたちは”殺し”を教わります。そのレポートが、今回訳したデボラ・アームストロングさんの連載記事です。

この記事を読んで、つくづく、ウクライナのネオナチの根は深いんだなと感じます。以前の記事「[ウクライナを紹介します](#)」にもあったように、ウクライナはヨーロッパでは最貧国です。西側のグローバリストとオリガルヒがもたらした貧困ですが、この貧困もまたネオナチがはびこる素地、原因になっていることは否めないでしょう。春夏秋冬開かれる子どもたちの準軍事訓練キャンプが無償だというのも親にとっては「助かって」いるのかもしれない。

また、日本でも、マスクを外せなくなった状況を見るにつけ、子供の頃からの「教育」の弊害は計り知れないものがあるように思います。もし、自分がウクライナのように、物心ついた年頃から、ある特定の民族や集団を殺

すことを奨励されていたとすれば、その間違いに気づくのにどれだけの時間を無駄にすることになるのか想像もつきません。特に日本のメディアは嘘をまことしやかに流すので、気付けないかもしれません。

他民族や他者への憎悪を植え付け、武器を持ち殺人を教える国、ウクライナ。その国とゼレンスキーを応援する”文明国”日本と西側諸国。シュールです。

目次

- 保育園からナチスに、パート1
 - 反逆の ABC
 - 漫画本ウクライナの歴史
 - マンガからキャンプまで

保育園からナチスに、パート1

Deborah L. Armstrong

Jul 30, 2022

From Nurseries to Nazis, Part 1

The shocking “education” of children in Ukraine

ウクライナの衝撃的な子どもたちの”教育”

子供をその行くべき道に鍛え上げれば、年老いてもそこから離れることはない

——箴言 22 章6節、新欽定英訳版

※「牧師の書齋」より引用

【新改訳改訂第3版】箴言 22 章6節

若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。

【新共同訳】

若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう。

【口語訳】

子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。

※記事に添付されている youtube 動画「”ロシア人を斬れ”と教えられたウクライナ人の幼児」は検閲削除されています。代わりに、デイリー・ミラーの 2015 年8月の「ウクライナ人少女がナチスの敬礼をし、”ロシア人を斬る”と自慢する衝撃のホームビデオ」から引用します。



ショッキング：映像の中で、子どもがカメラに向かってナチスの敬礼をする（Image: CEN）

この衝撃的な映像は、少女がナイフを振り回し、右手を挙げてナチスの敬礼をしているように見える。

3歳にも満たないこの少女は、1930年代にナチ党が指導者アドルフ・ヒトラーへの服従を示すために採用した掛け声「勝利万歳！（Seig Heil）」と叫んでいる。

左手にはナイフを持ち、ウクライナの国旗にナチスのシンボルである鉤十字が描かれたコンピュータ画面の前に立っているようだ。

別のフレームでは、彼女は「アッラーフ・アクバル(神は偉大なり)」と叫び、後ろのスクリーンには「イスラム国」の旗が映っている。

ウクライナの紋章をあしらった帽子をかぶって登場。

プロパガンダのために子供を利用する行為は、コメンテーターから病的と烙印を押されている。



ナイフ：少女はナイフを振り回しながら「ロシア人を斬る」と自慢している（Image: CEN）

時は 2015 年。

ウクライナの少女は、「love cat」と書かれたハローキティのTシャツを着ている。

彼女は4歳か5歳くらいに見えるが、もっと小さいかもしれない。

彼女は小さな手にナイフを持っている。

カメラの外から、彼女の父親が言う。

「マリノチカ(ロシア語で海からという意味)、ロシア人を斬るか？」と。

彼は「ロシア人」を意味する中傷を使っている。

「はい！」彼女は叫ぶ。

「奴らをどうするんだ？」と父親は聞く。

彼女は金切り声で叫ぶ。

「わたしはロシア人を斬る！」

彼女はこのフレーズを何度も繰り返し、ナイフで小さく突き刺す動作をする。

そして、ナチスの敬礼をする。

「ジーク・ハイル！」彼女は言う。「Sieg Heil!(勝利万歳)」と。

この子の父親は笑う。

この少女の動画は7年前に投稿された。今年(2022年)2月、ロシアがウクライナの国境を越えるよりもずっと前のことだ。YouTubeでは、ウクライナの子どもたちが「モスカル」を殺すと言い、ウクライナのために戦う準

備ができたと歌を歌い、ナイフを振り、スローガンを叫び、ナチスの敬礼をする動画を何百と見ることができる。このような動画はソーシャルメディアに溢れており、何年も前から出現している。

これはあなたにとって衝撃的なことかもしれない。しかし、ウクライナの歴史と、ソビエト連邦が崩壊し、すべての共和国が独立を宣言した 1991 年以降、そこで起きていることを理解していなければ、ショックを受けるだけだ。

独立は、少なくとも 1920 年代、ウクライナ民族主義者組織 OUN が設立されたときから、ウクライナ人にとって重要なことだった。私は以前、OUN の残虐行為と、バルバロッサ作戦で国防軍に従軍したナチスのステパン・バンデラらその指導者について書いたことがある。

バンデラ率いる OUN が 10 万人以上を殺害したことは、紛れもない事実である。事実、犠牲者の遺体は現在も掘り起こされている。



OUN の犠牲者の掘り起こされた遺体、ポーランド、1990 年代

Photo credit: kresky.pl

OUN の残虐行為のリストは長く、ヨーロッパの大部分を覆っているように見える”健忘症”にもかかわらず、十分に文書化されている。

ここでは、最も有名なものを紹介しよう

- ① 1941 年7月のリヴォフのポグロムでは、数千人の市民(ほとんどがユダヤ人)が残酷な拷問を受け殺害された。
- ② 1941 年から 1943 年にかけてキエフ近郊で行われたバビ・ヤールの大虐殺。ウクライナの民族主義者がユダヤ人やソビエト連邦に忠実なウクライナ人を含む数万人の殺害に加担した。
- ③ 1942 年7月、リヴネのユダヤ人ゲットーを清算し、5千人以上が殺害された。
- ④ 1943 年3月、ベラルーシのハティン村の徹底的破壊。
- ⑤ ナチス占領下のポーランドで、現在のウクライナの一部であるヴォルィーニでの虐殺。1943 年から 1945 年にかけて、10 万人以上のポーランド人と、”ソ連シンパ”と思われる数千人のウクライナ人が虐殺された。

そして、これはほんのリストの一部に過ぎない。

上のリストに掲載したリンクのすべてを自由にチェックしてみてください。

スミソニアンでさえ、ナチスのウクライナ人協力者の称賛をためらってはいない。



ベラルーシのハティニでの虐殺(指揮したグリゴリイ・ヴァシユラはウクライナ出身の人物)に関するスミソニアンの記事のスクリーンショット

ルドリングは、ナチスがベラルーシを”特に残酷に”占領した理由を、2つの重要な要因に求めている。第一に、ベラルーシにはアシュケナージ・ユダヤ人(その90%はホロコーストで殺された)の繁栄したコミュニティがあったこと、第二に、湿地と森林の風景がゲリラ戦に適していたことである。パルチザンの抵抗行為は、首都ミンスクの北30マイルに位置するハティニで起こったような、広範な民間人の虐殺につながった。

ルドリングが調査した日記、記録文書、目撃証言によると、ベラルーシのパルチザン75人のグループが、3月22日の朝、協力者のウクライナ人が支配する補助部隊、シュッツマンシャフト大隊118を待ち伏せしたという。ベラルーシの前線に駐留するドイツ兵1人に対して、15人から20人の協力者が、占領地の監督とパルチザンの抵抗の鎮圧のために待機していたのである。(「ハティニの大虐殺を忘れない」)

OUNは盗賊のように振る舞い、農場や村を襲撃し、民間人を標的にした。ユダヤ人、ロマ人、ロシア人、共産主義者、ソビエト連邦に忠誠を誓っていると思われる人物を虐殺した。バンデライト(ステパン・バンデラ率いるウクライナ民族主義者組織の派閥のメンバーおよび支持者)は人種的に純粋なウクライナ民族国家を望んでおり、ウクライナ人でない者は粛清される必要があると信じていた。

それが、歴史が語るストーリーだ。

しかし、それはウクライナの子供たちに教えられる物語ではない。

「“反逆の ABC”。子どもたちはいかにしてバンデライツとして育てられているのか」
ウクライナの子どもたちが “反逆の ABC”を勉強する動画

反逆の ABC

2013 年、小学生の子どもたちに、OUN にまつわるカラフルな漫画のストーリーとともにウクライナのアルファベットを教える教科書 “反逆の ABC”の初版が学校に届いた。

この教科書に登場する OUN は、強姦、殺人、略奪、放火で農村地帯をうろついた実際の OUN とは異なり、善行を積んで田舎をはしゃぎ回る愉快的な仲間たちとして描かれている。この本の著者であるオレグ・ヴィトヴィツキーは、この教科書が子供たちに “本物のバンデライト”になることを教えてくれると自負している。彼はこの本を漫画のようにデザインし、登場人物にアリャーミク、アドルフイク、リリプーチン、メドベチュコビッチといったかわいい名前をつけた。

文章よりも絵の方が多いが、文章に書いてあることを見てみよう。

例えば、ここに “M” という文字がある。



“反逆の ABC” からの写真。

Photo credit: [Livejournal](#)

“M”は “Maskovia”のことで、モスクワの古名である “マスコビー Muscovy”を意味する。この単語は “o”ではなく”a”で書かれており、ロシア語の発音を馬鹿にしている。

※マスコビー:モスクワを中心とする西中央ロシアの中世の公国であり、近代ロシアの核を形成した。マスコビーが拡大するにつれて、マスコビーの君主がロシアの支配者となった。

短い詩がある

マスコビーは恐怖のカナテ(モンゴルのハン国)です

虐殺と大霊廟の仮面

ここでは、リリプーチンが皇帝です

メドベチュコビッチはその下っ端です

アリアーミックはマゼピンカ(ウクライナの歴史的な軍帽)をかぶります

マシンガンとフィンカ(ロシアンナイフ)を装着します

彼はその日が来ることを知っているから

メドベチュコビッチとリリプーチンのとき

かつてのヴァトゥーチン(ソビエト軍の司令官)のように

反乱軍の手に落ちるでしょう

リリプーチンはもちろんウラジーミル・プーチンのことで、メドベチュコビッチはドミトリー・メドベージェフと2014年のマイダンクーデターで追放されたヴィクトル・ヤヌコビッチ元ウクライナ大統領のことである。

マゼピンカはOUNが被っていた帽子の種類、フィンカは短剣のことだ。

ヴァトゥーチンはキエフをドイツ軍から解放した赤軍の将軍で、後にバンデラによって殺害された。

マシンガン(mashingver)の語源はドイツ語の”シュトゥルムゲヴェーア Sturmgewehr “で、1944年に第三帝国が生産した突撃銃の一種である。



第二次世界大戦でドイツのナチスが使用したアサルトライフル “シュトゥルムゲヴェーア”。

Photo credit: Alexander Zavaly



民族主義者の行進に参加するウクライナの子どもたち。帽子に描かれたヴォルフスアンゲル(オオカミの天使)のシンボルに注目。このシンボルはヒトラーの親衛隊が使っていた。

Photo credit: LiveJournal

ウクライナ人がロシア人に対してこのような憎しみを抱くのは、現在の戦争を考えれば理解できることだと感じるかもしれない。しかし、バンデライトは何十年も前から子供たちに”モスカル”(「ロシア人」を意味する中傷)を憎むように教えてきた。彼らは長い間、将来の”ウクライナの戦士”の”教育”に関心があった。

1996年にはステパン・バンデラを英雄として描いた漫画が作られ、2007年には“闘うウクライナ”というタイトルで再版された。”モスカルの人殺し”と無私無欲で戦う勇敢な反乱軍を描いたコミックである。



2007年のコミック「闘うウクライナ」
Photo credit: [LiveJournal](#)

画家のレオニード・ペルフェツキーは、ヒトラーのドイツ国防軍と同胞である OUN 兵を、第二次世界大戦でソ連連合軍と戦う勇敢な英雄として描いている。もちろん、ソ連軍は卑劣な血に飢えた存在として描かれている。

ペルフェツキー自身はガリチア親衛隊の一員であり、もともとはウクライナ反乱軍が作成したチラシや新聞のために絵を描いていた。1953 年、アメリカのフィラデルフィアにあるウクライナ人ディアスポラ(離散、海外移住)が運営する日刊紙で、この絵が集められ印刷された。1970 年代には、ウクライナ青年同盟の雑誌「クリラティ」に掲載された。ウクライナ西部の主要都市テルノーピリの家族・青少年局のヤロスラフ・リポヴェツキーによると、2013 年にコミックは書籍化され、2000 部が図書館や公共団体に配布されたという。

リポヴェツキー氏によると、当初は塗り絵として出版しようと考えていたが、その考えは捨てられ、テキストを現代のウクライナ語に近づけるために慎重に編集された。初版は学校や大学の図書館に配布された。その後、12,000 部がウクライナ語で出版され、さらに 10,000 部がロシア語で出版され、主にロシア語を話す人々が住むウクライナ南東部で配布された。

2008 年には、KGB がステパン・バンデラを殺すまでを描いた子供向けのコミック「KGB の命令による殺人事件」が出版されている。



「KGB の命令による殺人事件」
Photo credit: Livejournal

このコミックは、ウクライナ青年連合によって出版された、実際にはグラフィックノベルのようなものである。デベロッパによると、面白みはなく、13歳以上の子どもたち、つまり“政治的理想を求める人たち”を対象にしているという。

リヴォフの学校のコンテストに参加した少女が「バンデラが、あなたの世界に、親戚として、父親として、兄弟として、ネイティブで不可侵なものとしてやってくる必要があるのです」と言ったことは有名である。彼女の呼びかけに応えたのは、熱烈な民族主義者で、ステパン・バンデラの名を冠した”トライデント”という組織のメンバーであるカプラノフ兄弟だった。そして2011年には、ウクライナの著名人を題材にした子供向けの教育シリーズ「12ポイント」に収録された「バンデラと私」という本を出版した。



炎に包まれたクレムリンの絵を手にするウクライナの少女。

Photo Credit: Vesti

2021年、ロシアの出版社 Vesti が「ヘイト教育：なぜウクライナの子どもたちはロシアに敵対心を抱かされるのか？」と題する記事を掲載した。

記事の内容は、ウクライナの未就学児が、燃えて煙を吐いているロシアのクレムリンの絵を手をしている上の写真についてだ。クレムリンの歴史的な時計であるスパスカヤ・タワー（救世主の塔）から炎が燃え上がっている。

この写真はインターネット上で大きな話題となり、何百回も再投稿され、ウクライナで育っている”美しい”新世代について、何千もの熱狂的なコメントが寄せられた。

ビデオ（閲覧にはVPNが必要な場合がある）の中で、少女は、「こんにちは、私はカトルーシャではなくダルーシャです。これは私が描いたものではなく、ハリコフ出身の女の子が描いたものです。絵の中でプーチンの城が燃えているので、人気者と言っただけでとてもうれしいです！」と言う。彼女は「万歳！」と歓声をあげる。

未就学児にとって、クレムリンはおとぎ話のお城で、プーチンは白雪姫や眠れる森の美女に出てくる悪い女王のような悪役なのだ。



子どもたちには軍事訓練が施される。

Photo credit: Rodina moyá

マンガからキャンプまで

しかし、「教育」はおとぎ話や漫画で終わるわけではない。ウクライナの子どもたちは、戦い方、アサルトライフルの撃ち方、殺し方なども教えられている。

以下の動画は「カレント・タイム Current Time」というロシアのテレビ番組が制作したもので、2015年にYouTubeにアップロードされたものだ。ウクライナの民族主義者が運営する訓練キャンプで、軍服を着て障害物コースを走り、自動小銃を撃つあらゆる年齢の子どもたちの姿が映し出されている。
アゾフ連隊の兵士がウクライナの9歳の子供たちに射撃の仕方を教える

動画の40秒後、特派員はインストラクターに話しかけ、インストラクターは子供たちが身に着けているナチスのシンボルやナチスの敬礼についての質問をはぐらかした。

「実を言うと、彼らはここで”心臓から太陽へ”という身振りをして、ヒトラーが考え出した”ジーク・ハイル」と言ったのです」と、彼はぎこちなく説明する。

ナチスのスローガンは、ルドルフ・ヘスが考案したもので、彼はヒトラーの演説に感銘を受け、このスローガンを叫び始めた。このフレーズは、総統の演説を聞く熱狂的なファンの群衆に受け入れられた。

教官と話した後、ナレーターは9歳の少年を紹介する。彼はすでにアサルト・ウェポンの撃ち方を知っていると言う。

「君は誰と戦うの？」と少年に問いかける。

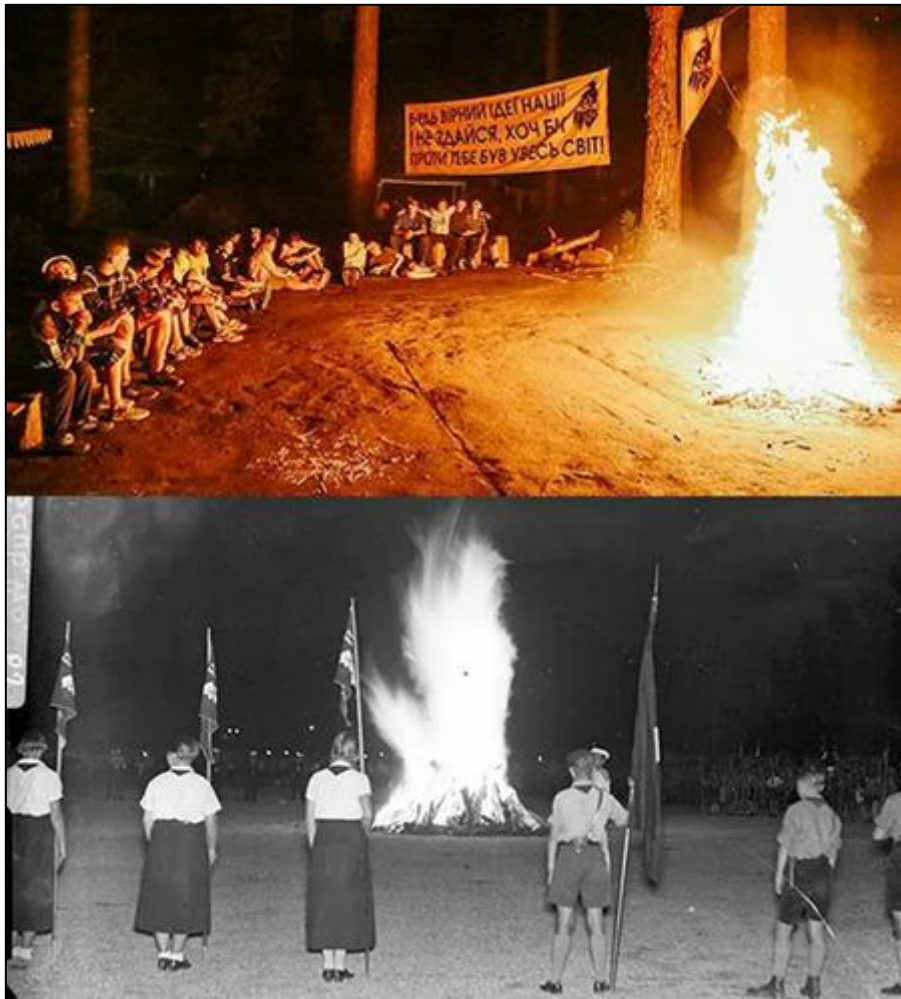
「敵だよ」と少年は答える。

「どんな敵なの？」と彼女は尋ねる。

「どんな敵でも」

「ここから戦争に行けるってわかっているの？ 怖くはないの？」

「いいえ」



上:2015年のウクライナ。下:1937年のドイツ。

Photo credit: [Komsomolskaya Pravda](#)

※「小さなナチスが育った:ウクライナでは、キャンプのネットワークが子供たちに何年にもわたってロシア人を憎むように教えていた」より引用

ナチスの刺青を入れ、ジグザグに歩き、ファシストの横断幕を持ち、「ヒトラーは偉大な国、産業、アウトバーンを築いたから偉大だ」と確信し、軍事・愛国団体カルパチア・シッチは「そのような比較は、民族主義者が多いウクライナを守る人々を侮辱する」として、ロシア人をファシストやナチスと呼ばないように求めたほどである。読んで字のごとく、まさにナチスやファシストたちがいる。

2015年、ロシアの出版社「コムソモリスカヤ・プラウダ」は、若者たちが“ウクライナのアーリア人の正しい精神”を教えられているキャンプについて、いくつかの記事を書いた。民族主義者たちは、ウクライナ西部の子ど

も、ティーンエイジャー、若者のためのキャンプのネットワークを立ち上げ、そこで子どもたちは武器の扱い、射撃、接近戦、そしてナイフを使った戦い方まで教えられている。

キャンプは2014年のマイダンのクーデターの後、ウクライナの7つの地域、キエフ、ハリコフ、チェルニーヒウ、チェルカースィ、ザポリージャ、ドニプロペトロフスク、トランスカルパチアで設立された。

悪名高いネオナチ集団であるアゾフ大隊は、キエフ郊外に”アゾヴェツ Azovets”という子供とティーンエイジャーのためのキャンプを持っている。オデッサには、プラヴィ・セクトール(右派セクター)が運営する”キャンプ・チョタ”がある。4歳以上の子どもたちは”カルパチア軍団”に参加することができ、スヴォボダ党が運営するキャンプもいくつかある。キャンプのネットワークは、あらゆる年齢の少年少女を受け入れている。キエフ郊外のアゾヴェツキャンプでは、夏の間、400人から500人の子供たちがナチスの準軍事訓練を受ける。

このキャンプは、マイダン以降、毎年、夏、そして春、秋、冬の間中にも実施されている。キャンプは子どもたちに無料で提供され、西側の助成金とウクライナ青年スポーツ省からの国家資金で賄われている。

訓練の中心は、”モスカル”と”分離主義者”を殺すことである。子供たちは、アサルトライフル、カービン、ピストル、ナイフ、拳で殺すことを教わる。そして、戦術、接近戦、サブマシンガンの組み立てと分解を学ぶ。

2014年、子どもたちは標的を撃つことを学んだ。

その後、訓練が完了した彼らは、アゾフ大隊やその他の民族主義民兵の隊列に加わり、ドンバスのロシア語を話す人々に向けて銃を撃った。

彼らの子供時代はどこへ行ったのだろうか……？

Yandex.com で検索して見つけたいくつかの写真を残しておきます。





ウクライナの兵士が子どもたちに銃について教えている。

Photo credit: Yandex

翻訳に協力してくれた Lilya Takumbetova、Lara Demidova、Alexander Zavaly、Dmitry Kuznetsov、Irina Strakhova に感謝する。

全3回に渡る調査レポート「保育園からナチスに、ウクライナの衝撃的な子どもたちの"教育"」のパート1を終了します。

パート2は[こちら](#)、パート3は[こちら](#)でご覧いただけます。

デボラ・L・アームストロング

—おわり

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

@kiyo18383090